

# GU'DAY

群馬大学情報誌  
[グッデイ]



## vol.4

2007 • Spring



▲草津セミナーハウス主催のスキー講習会に参加した留学生等



▲草津セミナーハウスのロビー

### 2 GU'DAY TALK

「稲葉清毅氏に聞く」  
国際的な競争時代の中で、  
群馬を基盤に独創性を築く

### 4 CAMPUS WATCHING

学生や教職員たちのキャンパスライフ  
を豊かなものにする研修施設  
「草津セミナーハウス・北軽井沢研修所」

### 6 TOPICS

- 全日本合唱コンクール全国大会で金賞受賞
- 留学フェア
- 高校球児のためのメデイカルチェック
- エ学クラブ

### 8 GUNDAI 最先端

優れた教育改革推進プログラム

### 10 ひらく・むすぶ・地域と大学

- 「産学連携・先端研究推進機構」
- 4つの組織を統合
- プロジェクトへの期待は大きい

### 12 すばつと叡策

教育学部建碑／先輩の足跡が伝わ  
ってくる建碑・長い歴史の息吹が感  
じられます

### 13 大学遺産

日本一の郷土かるたコレクション

### 14 あのときGUNDAI

戦中戦後の混乱期をくぐり抜けた  
医学部創立のころ

「GU'DAY」は、「GOOD DAY」の表音(日常のあいさつ=こんにちは・さようなら)で、「地域とのふれあい・コミュニケーション」を示すとともに、「GU (Gunma University) のDAY (時代)」も意味します。



# GU'DAY

グッデイ・トーク / 稲葉清毅氏に聞く (聞き手/副学長 白井紘行、教授 寺石雅英)

# TALK

## 競争時代の中で、群馬を基盤に独創性を築く

### 外から見た群大 内で体験した群大

白井 お忙しい中、ありがとうございます。最初には外からみた群大と、実際の群大のイメージは、どちらが良かったですか。

職当時、群馬大学に社会情報学部を作るので政策行政情報分野を担うことで欲しいという話がありました。新しい学問分野の開拓ということに魅力を感じ、こちらに来たわけです。それに、東京生まれですが、自然環境に恵まれた地方暮らしへのあこがれもありました。

寺石 社会情報学部創設に携わった訳ですが、実際に現場に飛び込まれたわけですね。

稲葉 日本で他にない、新しい学部を作ろうという熱気をイメージしていましたが、現実にはやや違いましたね。ミニ法学部、ミニ経済学部にするのでは意味がないと思い、熱い議論を闘わせました。大学は厳しい競争の中でアイデンティティを確立していかなくてはならない時代です。昔のように、地域ごとに一つというのではなく、日本中でどこしかないというものを

目指すべきです。全国の学生から選ばれることを意識しなくてはなりません。

東京を目指さず  
東京を利用する

白井 法人化の前後で、大学へ

はどのように変わりましたか。

稲葉 大学は収益は目的としませんが、社会に対する知的な貢献というアウトプットは意識しないとダメですね。法人化以後、お金に関わる話題が多くなったようですが、本当は教育と研究をどうマネージメントしていくかが大事です。地方自治と同様に、自由にやれる形は整った。後はどんどん競争の場に出ていく努力をすべきでしょうね。

寺石 大学の地域貢献が言われています。本学の方向性についてはいかがですか。

稲葉 社会科学には「現場」が必要ですが、「現場」を離れた抽象論が多すぎるような気がします。群大にとっての「現場」



稲葉 清毅 (いなば きよたけ)

【略歴】1936年東京都生まれ。59年東京大学理学部、62年同大学院修了。同年行政管理庁入庁、長官官房会計課長、行政情報システム参事官、長官官房審議官、恩給局長等を歴任。94年総務庁退職。同年ポーランド政府大臣顧問、96年群馬大学社会情報学部教授、99年同大学副学長、2002年群馬大学退職、群馬大学名誉教授。現在、群馬自治総合研究センター所長。【著作】『霞ヶ関の正体一國を亡ぼす行政の病理』晶文社刊、『みちくさ随想録 漂流する行政と立ち枯れる教育』(大空社)等 【群大・大学院での講義】『行政情報システム論』、『情報法』、『行政学特論』、『遊びを考える』等。

聞き手 副学長 白井紘行  
教授 寺石雅英

は群馬県という地域です。軸足を地域に置いた研究や教育が必要ですね。

群馬は江戸時代に小さな藩が分立していたせいか、地域文化を尊重するより、東京の方向ばかり見ているところがあります。これからは、ミニ東京を

つくるのではなく、自立性の高い地域社会や文化を育てていかなくなくてはならない。群馬大学はそのためにも大きな役割を持つていると思います。群馬を中心として、世界の中で競争して行くと言う気持ちで、東京を利用するように

欲しいですね。

### 競争の中で ブランド力を高める

白井 日経のランキングで本学の地域貢献度が全国で9位に入りました。産学連携では、他



県から視察が来るほどの実績があります。一方で受験人口が減少し、予算も減ってきているなど、厳しい環境に直面しています。

**稲葉** 大学を法人化し、競争的資金を増やした目的は、個性的で創造的な教育や研究への取り組みを評価して行こうということ。群大はタイムズの総合ランキングでも日本で16位に入りましたね。非常に立派な成果だと思いません。これからも、他大学、さらに世界の研究を意識した戦略が必要になってきますね。



でもそのような可能性はあるでしょうか。

**稲葉** 日本では中央のお墨付きがあると、特定の研究などに資金が集中しやすい傾向があります。昔の旦那衆が、見所のある若者に教育資金を提供したり、研究のバックアップをしていたように、地

域ごとに個性のある学問分野に資金が行くような仕組みができてくると思います。そのためにも、群大が信頼と期待を集めるようになって欲しいと思います。

## 地域に根ざした群大ならではの個性を

**寺石** やりたいことが見つからないなど、変化する社会の中で学生は多くの悩みを持っていきます。学生へのメッセージをお願いします。

**稲葉** 学生時代に学んだ知識や技術で、一生仕事をしていく時代ではありません。地方行政でも、商工業や農業の振興を熱心に行っていますが、それだけで済む時代ではないでしょう。常に社会のニーズを見



極め、自分自身を開発し、世の中に仕掛けていく。そのため基礎能力を大学で身につけて欲しいと思います。

**寺石** 稲葉先生は教養科目で「遊びを考える」という授業を行い好評だったと聞いています。**稲葉** 人の生活の中で、仕事と休息は、労働や健康といった観

点から、比較的研究が進んでいる。しかし第三の分野とも言うべき遊びは極めて大事な機能を果たしているのに、学問の対象になっていないのはおかしい。そんな着眼点で。学生は押しつけでは勉強しませんが、興味を持たせると頑張ります。それぞれ資料や文献を探してみました。

若い人に言いたいのは、昔からの仕組みを勉強するだけでは、これからの世の中で勝ち残っていけない。前例墨守のコピーでは、BRICS(\*)などには追いつかれる。どんな小さなことでもいいから人の考え出せないようなことに取り組むことが重要です。大学はそのための基礎づくりをするところで、知識を学ぶだけで完結してはいけません。



**稲葉** この分野では他の大学に負けない、というものを持つことです。また、大学のキャンパスだけにとどまるのではなく、地域の「現場」に飛び込んで研究や教育を行って欲しいと思います。

**白井・寺石** ありがとうございます。

(\*) BRICSとは「brink=レンガ」をもち、ブラジル(Brazil)、ロシア(Russia)、インド(India)、中国(China)の4カ国の頭文字を並べたもので、台頭する新興大国を意味する造語です。



# 学生や教職員たちのキャンパスライフを 豊かなものにする研修施設

## [草津セミナーハウス・北軽井沢研修所]

ゼミやクラブの合宿に気軽に利用できる研修施設が群馬大学には2カ所あります。草津セミナーハウスと北軽井沢研修所。いずれも周囲を豊かな自然に囲まれた日ごろとは異なる環境の中で、スポーツや勉強に思う存分打ち込むことができるはずです。意外に知られていない研修施設の存在。賢く利用して豊かなキャンパスライフを送ってみませんか？

### 草津セミナーハウス

草津の温泉街の喧噪から程よく離れ周囲を大自然に覆われた草津セミナーハウス。関東甲信越地区国立大学共同利用施設として24大学の学生や教職員らが利用することのできる施設です。草津セミナーハウスは、1956(昭和31)年赤城山大沼湖畔に創設された赤城山寮(わが国初の地区国立大学共同利用合宿研修施設)の二代目として1984(昭和59)年に建設されました。大小5つの研修室に加え、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、卓球などのコートを備えた体育館があり、ゼミ合



草津セミナーハウス外観

宿やスポーツ合宿などに対応できます。定員は約120名。お風呂はもちろん草津温泉の源泉、合宿の疲れを癒してくれるでしょう。夏期は、さまざまなスポーツ合宿の舞台となり、ソウルとほぼ同じ気候であることから、ソウルオリンピックのレスリング合宿が行われたこともあり。冬季はスキーがメイン。スノーシューで雪面の散策を楽しむことも可能。森林に囲まれた周囲はハイキングにも最適で、四季を通して各種合宿の舞台として賑わいます。レスリングをはじめさまざまな合宿でここを利用する教育学部の柳川教授によれば「静かで落ち着くし、泊まり心地は抜群」とのこと。



食堂



宿泊室



研修室





体育館と浴室（章津セミナーハウス）



念館は故田邊博士が晩年愛用された机、眼鏡、マント、帽子といった身の廻り品が展示されて

北軽井沢研修所は、風光明媚な別荘地、北軽井沢大学村の一角にあります。元京都大学名誉教授田邊元博士の遺言により、京都大学退官後に移り住んだ田邊山荘が群馬大学に寄贈されたのは、1963（昭和38）年のこと。母屋は研修所、そして書斎は田邊記念館として管理運営されています。現在の研修所は、1973（昭和48）年に新築されたものです。研修所は2階建て。1階はソファの置かれたゆつたりくつろげる居間と研修室。奥には和室とキッチン。宿泊者はここで自炊することになります。2階は、和室が2部屋。1組単位での貸し切り利用が基本で定員は15人。5月1日から10月15日までの期間、1泊運営費1000円ほどで利用可能です。

## 北軽井沢研修所

利用者は毎年8000人以上。群馬大学をはじめ地区国立大学の学生教職員は1泊あたり運営費1800円（5月1日から9月30日までは1400円）で利用できます。食事は別途（朝食460円、昼食500円、夕食980円）。原則として研修を目的とする4人以上の団体が対象となりますが、一般の方も利用できます。



北軽井沢研修所外観（左が田邊記念館）



1階の居間

小説家など文化人も多く住む大学村は、森林に囲まれ夏は冷房も必要なくくらいに冷涼で快適な気候。今年の夏は、北軽井沢で知的探訪してみませんか。



田邊記念館の和室

## 本学、世界大学ランキングで252位、日本では16位

世界でもトップクラスの教育情報誌として、高い評価を得ているイギリスの雑誌「タイムズ」誌の別冊THE Sによる2006年の世界大学ランキングで、本学が世界第252位（日本では16位）にランキングされました。

このランキングは研究力、就職力、国際性、教育力という4つの観点から世界の大学を評価したものです。1位ハーバード大学、2位ケンブリッジ大学、3位オックスフォード大学と続き、日本では東京大学19位、京都大学29位など。本学の252位は、筑波大学（269位）や金沢大学（303位）、千葉大学（303位）、一橋大学（314位）などより上位に位置し、研究・教育力の高さが世界基準で高評価されたものと考えられます。

※1) 2006年10月6日発行 ※2) THES=The Times Higher Education Supplement



## 教育学部附属中学校音楽部が快挙

### 全日本合唱コンクール全国大会で金賞受賞



文化祭で金賞受賞曲を披露する音楽部

10月29日にさいたま市で開催された第59回全日本合唱コンクール全国大会において、中学校部門混声合唱の部に出場した本学教育学部附属中学校音楽部が金賞に輝きました。

同コンクールは、国内ではNHK全国学校音楽コンクールと並んで大コンクールと呼ばれる大会。同校音楽部は、これまでも全国大会へ出場したことはあったが、金賞受賞は初めての経験です。大会に続いて10月31日に開催された同校の文化祭では、音楽部がコンクールで発表した混声合唱とピアノのための組曲「宇宙の果物」から「曙」を披露し、生徒や保護者ら聴衆を魅了、大きな拍手が送られました。

### 留学フェア

## 韓国・台湾で大学説明会を実施

「優秀な留学生に少しでも多く群馬大学に留学してほしい」。こんな願いを持って、本学はJASSO(日本学生支援機構)が主催する韓国、台湾での日本留学フェアに参加しました。

留学フェアは、台湾では台北(7月28日)、高雄(7月30日)、韓国では釜山(9月9日)、ソウル(9月10日)と合わせて4会場で開催されました。

本学には学部学生、大学院生、研究生ら中国を中心に現在246名の留学生在籍が在籍しています。台湾の台北教育大学や東海大学、韓国の嶺南大学とは交換留学制度の協定を結んでいます。今回の留学フェアへの参加は、より多くの優れた私費留學生を確保することを目的としたものです。

各2日間の留学フェアでは、台湾会場で約400人、韓国会場で約120人ほどの学生が群馬大学のブースを訪れました。ブースでは、まずアンケートをとり、それから群馬大学について説明しました。来場する時点ですでに日本の大学について情報を仕



台湾で行われた留学フェア



韓国で行われた留学フェア

入れてから訪れる参加者も多く、卒業後のビジネスを見越し、入学後の研究や生活など具体的な事項を親とともに熱心に勉強する姿が印象的でした。



# 早期診断と練習方法のアドバイス

## 高校球児のためのメディカルチェック

肩や肘を痛めて、志半ばにして野球を諦めることとなる高校球児を救ってあげたい。そんな願いを持って始まったのが、本学医学部附属病院整形外科外来による高校球児のためのメディカルチェックです。肩や肘などの障害を早期に発見し、速やかな治療を実施し、スポーツ予防医学的見地から高校球児をサポートしようとする試みです。

従来は平日に週2日一般の整形外科外来の中で診察していましたが、現在は群馬県高等学校野球連盟とタイアップし、各校投手のみ2名ずつ毎

週日曜日に順番にメディカルチェックしています。球児の肩、肘の筋肉や腱の状態を超音波でチェックし、障害部位の早期発見につなげるのです。さらに単なる発見のみに終わらず、炎症の解消法や痛みをコントロールする方法、ストレッチをはじめとするトレーニング方法のアドバイスなど、選手と一緒にモニターを見ながら、不安を解消できるように説明しています。選手や関係者の間でも「いいアドバイスを受けた」と好評のよう。

また、夏の全国高等学校野球選手権群馬県大会では、3



メディカルチェックを受ける球児

回戦以降は理学療法士らとともにスタッフが救護室で待機し、球児達の体調をケアしました。肩や足腰の張りを訴える選手たちの痛みを少しでも解放するためにマッサージなどメディカルサポートを行いました。

いま若年層の「理科系離れ」は大きな社会問題として浮上しています。なかでも「科学技術」とはほとんど関わりを持たないまま大学進学の時を迎える学生も多い。こうした問題を地域と一体となって解決するため、

本学工学部は3月2日「工学クラブ」を設立しました。モデルとなるのは、ヨーロッパのサッカークラブ組織。子供時代からプロまで一貫した組織の中でハイクオリティなプレーにふれることで、将来性有望な選手たちが育成されるのです。

本クラブは、本学工学部が主催するテクノドリムツアー、発明想像画コンクール、「ロボットと遊ぼう」といった各種イベント情報を発信し、小・中・高校生の参加を促進すると共に、小・中・高校生等を対象に「理科教育及び先端技術教育につながるプログラム」を展開します。すでに当クラブへの参加を決



ダニー・オーバーディア博士と工学部関係者

めている学校は、東毛地域を中心に200校あまり視察に訪れた、南ミズリー州立大学で理科教育を研究するダニー・オーバーディア博士は「学内にとどまらず、自治体など地域と連携してやっていくところが面白い」と本学の取り組みに興味を持った様子。

近隣の国立大学工学部の受験倍率が低迷を続ける中において、堅調な本学工学部のチャレンジは注目を集めそうです。

## 地域とともに理科離れをストップ

### 工学クラブ



# 優れた教育改革推進プログラム

～「地域密着型健康づくりプランナーの育成」と

「多文化共生社会の構築に貢献する人材の育成」～

GUNDAI

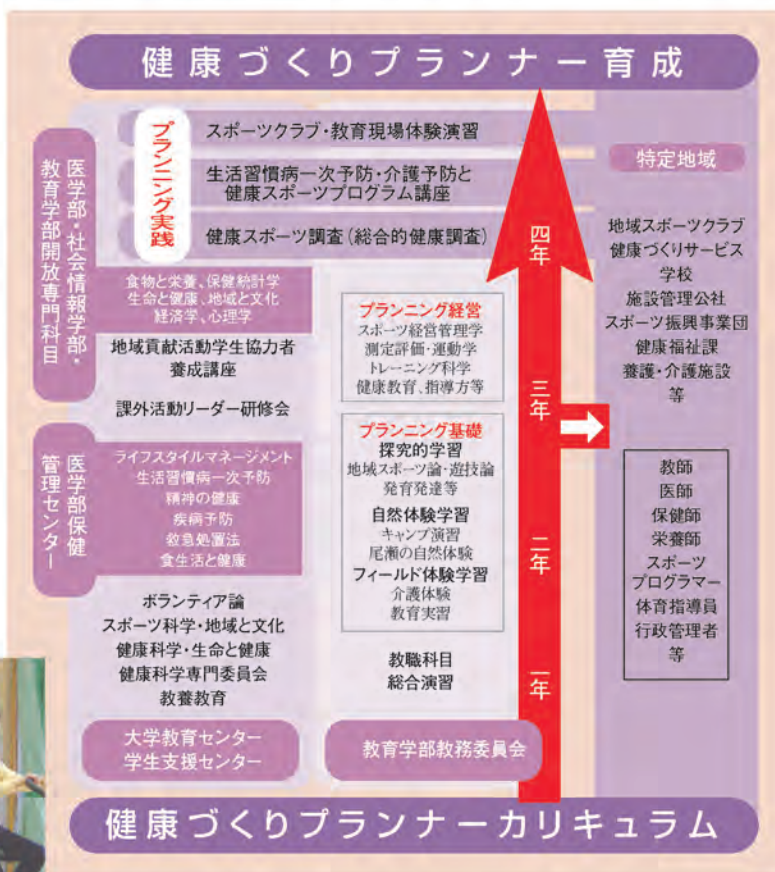
最先端

群馬大学では、いま文部科学省による「特色ある大学教育支援プログラム」(特色GP)及び「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代GP)に選定された取組が5件進行中です。特色GPは、教育方法や教育課程の工夫改善など学生教育の質の向上への取組に関するテーマから、現代GPは社会的要請の強い政策課題(地域活性化への貢献、知的財産関連教育など)に関するテーマから優れたものが選定されます。選定された取組は、文部科学省から補助金などのサポートが得られます。今回は、教育学部を中心に進行する2つのプロジェクトを紹介しましょう。

平成18～20年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム「地域密着型健康づくりプランナーの育成」

いま群馬県の多くの自治体では、車中心型社会に因を発する運動量の減少や少子高齢化問題、子どもの体力問題などを大きな課題として認識し、「住民の健康づくり」を地域活性化課題の一つに掲げ、医療費・介護費の削減に取り組んでいます。コアとなるのが、健康スポーツクラブサービス。しかし、そのサービスは行政区分ごとの窓口に分かれ縦割り行政の不合理性が指摘されているのが現状です。

こうした中、本学では地域の健康づくりと





# 最先

その総合化を行なうために、地域密着型健康づくりプランナーの育成に着手しました。育成すべきプランナー像をあげると次のようになります。

- ①地域の健康づくりに関する実態を把握し、課題を分析、解析できる人材
  - ②行政区分、専門領域の健康プログラムを「健康スポーツに総合化」できる人材
- こうした人材育成のため、健康づくりプランナー育成カリキュラムを設定し、プロジェクトで活躍できる教師、保健師、体育指導員、医師、スポーツプログラマー、行政職員などを養成します。

企画・運営する力を育てる課外活動



提言実践力

協働解決力

課題抽出力

協働の力を育てる

多文化共生マインドを育てる

特別開放専門科目／教養教育科目（主として3～4年生対象）  
【例】多文化共生インターンシップ・地域貢献ボランティア中級・上級



専門教育科目【例】教師と共に創る多文化共生教育実践(教育)  
国際社会リテラシー（社会情報）・地域保健医療推進論（医）



教養教育科目（主として1～2年生対象）  
【例】ポルトガル語入門・多文化共生社会を考える・学生のための仕事術



実施体制は、教育学部をコアに、医学部医学科・保健学科、社会情報学部、地域連携推進室、大学教育センター、学生支援センターなど全学的です。

例えば、総合型地域スポーツクラブ「群大クラブ」を設立するが、そこでは実際にクラブの子どもへのプログラムサービス等の企画・経営に積極的に関わり実践的にプランニングを学習します。また医学部による健康づくりプランは、生活習慣病などについて血液検査や体力測定をはじめとする各種検査・診断を行い、その健康評価をもとに個人用の健康プログラムを作成し、実践をサポートするというものです。この健康スポーツプランづくりは前橋市大胡町をモデルとして、すでに始まっています。

こうした取組は、健康づくりへの効果はもちろん、地域活性化への貢献が大きいと期待されます。

## 平成17～20年度特色ある大学教育支援プログラム「多文化共生社会の構築に貢献する人材の育成」

多文化共生社会の構築。それは、人口の15%を外国籍住民が占める大泉町をはじめ、外国籍住民の定住化が進行している群馬県にとって、最も重要な地域課題の一つと言えるでしょう。外国籍住民の増加に伴うさまざまな異文化摩擦は、多文化地域に生活するすべての人々にとって切実なテーマです。

こうした中、本学が取り組んでいるのが、「共生マインド」を持った人材を育成する全

学的な教育プログラム。地域の課題を解決し、多文化共生のまちづくりに貢献できる教員、医師、保健師、エンジニア、行政関係者といった専門的職業人を育成することが本プログラムの目指すところです。

本プログラムが養成する力は3つ。まず、課題抽出力。これは、フィールド調査を行い、外国人集住地域の実態を把握し課題を発見する力。次に協働解決力。課題解決に必要な分野・領域の組織・人材をコーディネートし、協働で課題解決を図る力です。最後に提言実践力。これは、多文化共生社会の構築に求められる対応策を専門領域から具体的に検討し実践する力のこと。

こうした力を蓄えるため、大泉町や群馬県多文化共生支援室等と連携しつつ、さまざまな工夫を凝らした教育カリキュラムやプロジェクトを実施してきました。一例を上げると、教員研修連続ワークショップ、多文化共生インターンシップ、多文化共生支援者養成講座、多文化共生シンポジウム、地域貢献活動学生協力者養成講座、在日外国人学校等健康診断・健康相談会、多文化共生教育実践巡回プロジェクト、多文化地域のフィールドワークなどなど。

「現場に根ざし、地域の実情を把握し、住民の視点に立つ」、こうした立場から、地域の課題を具体的に解決していきます。多文化共生の模範的モデルを構築するプロジェクトは実に壮大です。「共生マインド」を誰もが共有できるキーワードに、そして「地域に根ざし、地球規模で考える」をモットーに、本学は多文化共生社会の未来を切り開く人材を育成していきます。



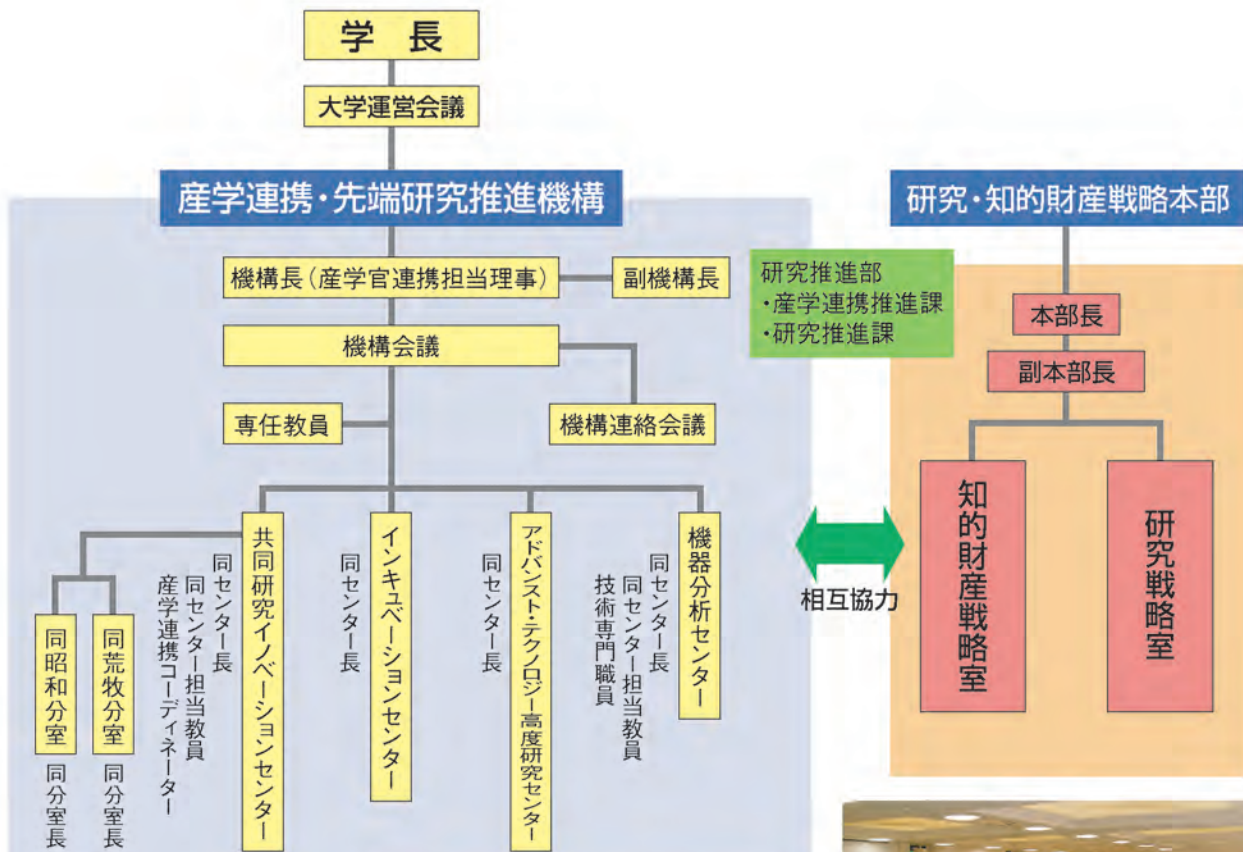
# 地域と産業界へのかけ橋 産学連携・先端研究推進機構

## 4つの組織を統合

本学は、2006(平成18)年6月、「産学連携・先端研究推進機構」を設立しました。主として大学における研究成果を社会還元し、産学官連携による地域活性化や創業支援といった社会貢献活動を推進していくことが目的です。

「産学連携・先端研究推進機構」は、これまで産学官連携をサポートしてきた4つの組織「地域共同研究センター(現共同研究イノベーションセンター)、インキュベーションセンター、機器分析センター、サテライト・ベンチャー・ビジネスラボラトリー(現アドバンス・テクノロジー高度研究センター)」を総括する機構として設立されました。各組織がこれまで築き上げてきた伝統や強みを活かしつつ、柔軟性のある効率的なシステムとして整備し、産学官連携活動がより盛んなものとなることを意図したものです。これら4つのセンターは、工学部・工学研究科が拠点とする桐生地区に設置されています。

### 国立大学法人群馬大学産学連携・先端研究推進機構組織図



企業塾受講者(修了式)



ものづくりフォーラム聴講風景





右からアドバンス・テクノロジー高度研究センター、インキュベーションセンター、共同研究イノベーションセンター

## プロジェクトへの期待は大きい

各組織の役割を簡単に紹介しましょう。

### (1) インキュベーションセンター

近い将来に産業化が期待できる「実用化研究」を進めるための研究施設。すでに教員が代表をつとめる企業が入った創造開発室ではさまざまなテーマの研究が実用化を視野に進められています。大学発ベンチャーの発信基地といった趣です。

### (2) 機器分析センター

各種分析装置を集中管理し、学内外の利用者の研究と共同利用に提供する部署。装置類は、産学連携の観点から地域の中小企業にも開放される。

### (3) アドバンス・テクノロジー高度研究センター

中心となるのは、将来のわが国の産業の土台となるべき基盤技術の研究開発。高度の専門的職業能力とベンチャーマイน์ドにあふれた人材を育成する教育研究施設。

### (4) 共同研究イノベーションセンター

民間企業との共同研究、受託研究などにより、優れた研究成果を生み出すことが目的。1988年(昭和63)設置と、産学連携・先端研究推進機構の組織の中で最も歴史が古い。

産学官連携の中心的存在として、地域・産業界に対してさまざまな実績を上げてきました。こうした実績の一つ

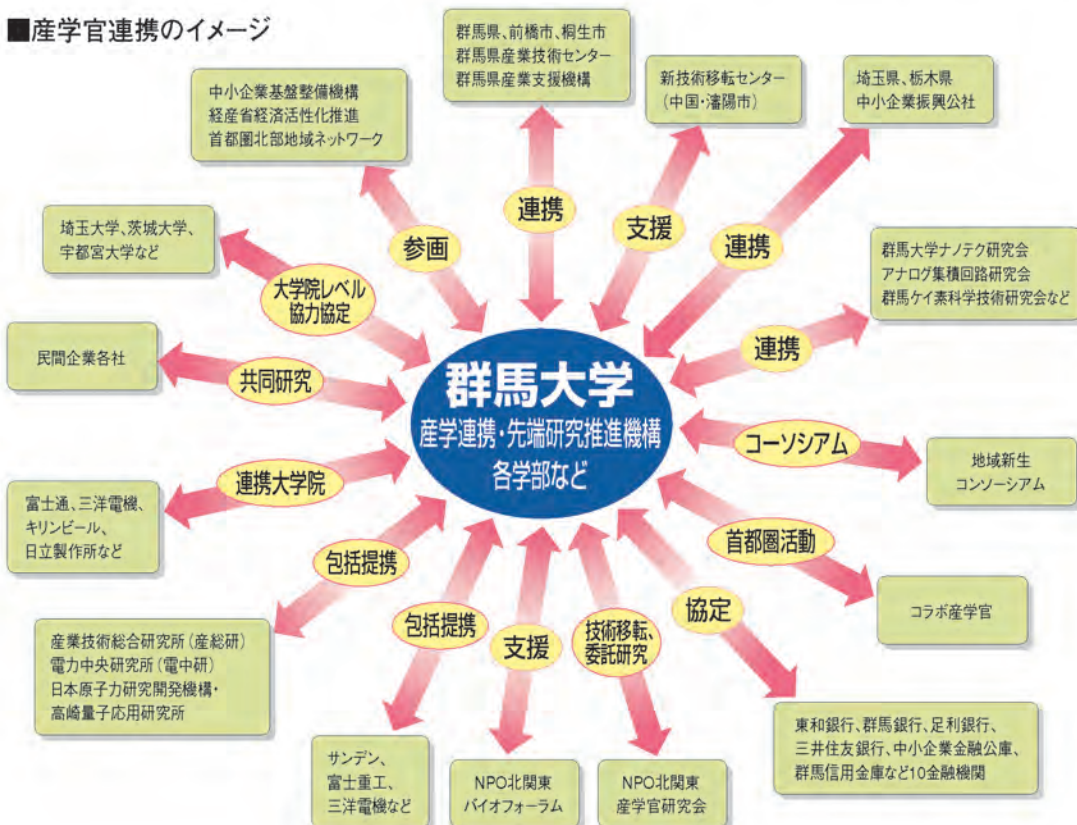
に、大手6企業・3研究機関と結んだ連携大学院の協定があります。これは、企業の研究員を客員教授として招聘したり、大学院生を研修員として企業に派遣できるシステムのこと。こうした連携の中から、「ナ

ノテック研究会」「アナログ集積回路研究会」「中国ビジネス研究会」「燃料電池の創りかたサロン」「ケイ素化学技術研究会」「もの作りフォーラム」「群馬」など多くの研究会が誕生しました。

多彩な連携による研究活動はすでにさまざまなテーマによるプロジェクトとして進行中です。共同研究数の推移を見ると、2001(平成13)年度の83件に対して2005年(平成17)度は

172件と、ほぼ倍増しました。産学連携・先端研究推進機構が設立され、体制が強化されたことで、ますます研究活動は充実したものになっていくのは間違いありません。

## ■産学官連携のイメージ







創立百周年記念碑

# すぽっと 散策

## 先輩の足跡が伝わってくる建碑 長い歴史の息吹が感じられます

### [教育学部建碑]

本学キャンパスの中にあつて、その存在はなんとなく知られているものの、その謂れまではよく分からないのが、あちこちに点在する「碑」。今回は、なかでも教育学部に関わりのある碑を紹介しましょう。

教育学部の玄関わきに鎮座するのが「創立百周年記念碑」。1973(昭和48)年、教育学部が現在の荒牧に移転した後、百周年を記念して建立されたものです。

そこから徒歩でほんのちよつと南へ行くと、「石原和二郎先生記念碑」があります。石原先生は群馬県師範学校を卒業後、「兎と亀」「金太郎」「花咲爺」など童謡作家として知られ、「童謡の父」と称されています。現在の碑は、1955(昭和30)年、その功績を讃え、もとの日吉校舎(現県民会館)構内に建立されたものを1970(昭和45)年1月荒牧移転に伴つて移築したものです。碑には「兎と亀」の一節が刻まれ、我が国童謡碑第一号とされています。

さらに教育学部内にもう一つある碑が、「井上武士先生記念碑」です。群馬県師範学校を卒業した井上先生は、「チューリップ」「うみ」などの作曲を通して日本の音楽教育界の至宝と目されました。この碑は先生の偉業を讃えるため1975(昭和50)年に建立され、「うみ」の音符の一節が歌詞とともに刻まれています。

荒牧から足を伸ばして、本学附属小学校に行くと、「群馬県女子師範学校跡地記念碑」があります。この地にかつて群馬県女子師範学校があったことを伝えていくために、1976(昭和51)年に建立されました。

さらに県民会館敷地内には、「由来碑」があります。ここがかつて群馬師範、学芸学部、教育学部であった由来を伝えるため、1974(昭和49)年に築かれました。

ひっそりとたたずむ碑を訪ね歩いてみると、本学の先輩たちの息づかいが伝わってくるようではありませんか。



群馬県女子師範学校跡地記念碑



由来碑



井上武士先生記念碑



石原和二郎先生記念碑







# くぐり抜けた医学部創立のころ

教育学部、工学部と比べるとまだ歴史が新しい医学部。その歴史は、戦時中の1943(昭和18)年4月前橋医学専門学校が設置されたことに始まります。1回生が卒業しないうちに終戦を迎え、前橋医科大学、そして昭和24年の学制改革により群馬大学医学部となりました。今回は、戦中戦後の医学部黎明期をふりかえってみます。

## 国立医学 専門学校第一号

前橋医学専門学校が設立されたのは、1943(昭和18)年第二次世界大戦まっただ中のこと。軍医養成機関として、また、初の国立医学専門学校として開校したのでした。校長は石原忠先生(陸軍軍医少将)。教授6人(川合貞郎教授・病理学、柴田勝博・薬理学、武藤義夫・生化学、新島迪夫・解剖学、山本郁夫・細菌学、奥保男・生理学)と事務職員3人からのスタートでした。入学試験は1次試験が前橋中学と東京文理大、2次の面接試験は東大で行なわれました。他大学の入試が終了した4月後半だったこともあり、120人の定員に対して志願者はなんと3060人も集まりました。

現在附属病院がある付近は、当時一面の原っぱ。5月10日の開校式は、そこに大きなテントを張って挙行。あいにくの強風で式の途中でテントは裂けてしまったといわれています。



▲前橋医学専門学校遠景=1943(昭和18)年

開校当時の校舎は2階建て1棟のみ。その後、西方に解剖室や微生物の実習室を整備していきまされた。授業は大講堂を間仕切りして行なわれ、多くの軍事教練が課されていました。厳しい食料事情から敷地の一部は水田

や畑として利用され、授業の一環として農作業なども行われました。

当初全寮制、2年目から下宿でしたが、最初の寮は元

製糸工場の遊休施設を利用しました。6人の先生が交代で宿直したのです。食事については、戦中の食糧困難な時代にあつて医学部の学生たちは、多少優遇された面もあつたようです。

チンチン電車の走る国道17号の東側にあつた当時の附属病院は、2階建てベッド数50の組合病院をもらい受けたもので、1944(昭和19)年3月に開院しています。しかし開院してすぐに整備のために休診し、再開したのは7月1日だったようです。全診療科そろつていたわけでもなく、現在の附属病院とは比較しよるもない状況だったのです。物資不足から解剖のための顕微鏡も性能のいいものなど期待すべくもなく、金属が全



▶萩町(現在昭和町)にあつた養心寮。1945(昭和20)年8月に空襲により焼失した



▶1945(昭和20)年に竣工した第2号講堂(医学部の最西南端にあり、現在の刀城会館付近にあつた)



# 戦中戦後の混乱期を

▼前橋医学専門学校正門=1943(昭和18)年



然使われていない合成樹脂のようなものでできていたといわれます。すぐにがたがたになっってしまう有り様でした。初代の石原校長は、診療内規、院内勤務者心得、看護婦心得など自ら作成方針を示すなど人間として立派な医師を養成するために骨身を惜しみませんでした。

## 戦後めまぐるしく 変遷する中で

終戦後石原校長が退任すると、1946(昭和21)年5月には東京大学名誉教授西成甫先生を第2代校長として迎えました。その後同年11月には前橋医科大学設置審査を受け大学昇格への道を歩みます。前橋医科専門学校は1946(昭和21)年の第4回入学生が最後となり、1948(昭和23)年無事大学へと昇格を果たしました。前橋医科大学は1948(昭和23)年から1950(昭和25)年の第3回まで入学生を入れたところで群馬大学医学部と改称しました。学制改革により群馬大学は1949(昭和24)年に誕生しましたが、当時の医学部は4年制で大学の一般教養課程において2年間で所定の単位を取得すると医学部受験の資格が与えられ、その後入学試験に合格すると医学部専門課程の1年生になる制度となっていました。そのため、医学部に最初の入学生が誕生したのは1951(昭和26)年で、卒業は1955(昭和30)年3月でした。

前橋医科大学では学位論文審査権を取得するため研究科



▲外來本館完成=1949(昭和24)年

の設置に学長以下教授一同が奔走しました。また本学大学院研究科設置申請に際しては、蔵書条件を満たすため教授をはじめ多数の関係者による書籍の寄贈により承認にこぎつけたのです。

黎明期の医学部には、不足しているものは沢山あったが、学生や教職員たちの情熱ははかりきれないものがあつたに違いありません。



▲基礎本館=1949(昭和24)年ころ



▲初期の学生ホール。木造大講堂を仕切って使用していた=1951(昭和26)年ころ

## MESSAGE

「大学法人化」による変化の波は、さまざまところにと及んでいます。本誌「GUDAY」も、いっそうの産学連携を図るため、裏表紙に広告を取り入れました。そのため、レイアウトも一部変更し、後書きはこちらに移動します。

地域への貢献や、知的支援は、大学としての欠かすことのない役割です。そのためにも地元企業との産学連携は、不可欠な要素といえます。今後、教育分野、研究分野を中心に、群馬大学との共同事業を希望される地域や企業の方はぜひ本学にご連絡ください。また、本誌への広告掲載も歓迎いたしますので、ご協力の程、お願いいたします。



はじめよう

東和銀行で「投資信託」を。

ご相談  
受付中

投資信託で  
資産を運用しよう。



©NIPPON ANIMATION CO.,LTD.

【投資信託ご購入にあたってのご注意事項】

- 投資信託は、預金ではなく、また預金保険の対象ではありません。
- 当行でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- 投資信託は、金融機関の預金・定期積金と異なり、元本および利息の保証はありません。
- 投資信託は、委託会社が設定・運用を行っているもので、当行では申込の取扱を行っています。
- 投資した資産の減少を含むリスクは、投資信託の購入者が負います。
- 投資信託は、株式・債券など有価証券に投資しますので、ファンドに組入れられた株式や債券の値動き、為替相場の変動(外国証券に投資している場合)、発行者の信用状況の変化等により、基準価額は変動します。従ってご購入時の価額を下回ることもあります。これに伴うリスクは、ご購入されたお客さまに帰属します。
- お申込みにあたっては、最新の「目論見書」を東和銀行本支店等にご請求の上、必ず内容をご確認いただき、ご自身でご判断ください。

お問い合わせは、最寄りの支店窓口または担当者にお気軽にご相談ください。

ふ れ あ い バ ン ク

**TOWA** 東和銀行